

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
1 変化に富む世界の地形	<p>地表の 29%を占める陸地は、大陸と島に分かれ、山脈の連なる造山帯と平原からなっていることを、作業を通して読み取り、日本が環太平洋造山帯の一部に属し、地殻変動が繰り返され、不安定な地域にあるという地域的特色について関心をもつことができる。</p>	<p>1, 地図帳を見ながら、白地図に大きな山脈と平原を書き込み、どんな傾向があるかとまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>太平洋の周りに大きな山脈が連なっている。</li> <li>中国とインドの国境沿いに大きな山脈があってそれが東西に連なっている。</li> </ul> <p>作業で見つけた大山脈が、環太平洋造山帯とアルプス・ヒマラヤ造山帯を形成していることを押さえる。</p> <p>2, このような造山帯が、どうやってできたのかビデオを見てまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>プレートの移動にもなって山脈が形成されたのだな。</li> <li>日本の周りにもプレートの境目があるのだな。</li> <li>日本は環太平洋造山帯の一部に属しているのだな。</li> <li>日本の地形はどうなっているのだろう。</li> </ul> <p>《単元を貫く課題》</p> <p>日本の自然環境は、世界と比べてみてどんな特色があるのだろう</p>	<p>ア -</p> <p>日本が環太平洋造山帯に属していることに関心を持ち、不安定な土地であることに着目して感想を書いている。</p> <p>&lt;場面&gt; 授業後 &lt;方法&gt; ノートの記述</p>	<p>「世界の地形」(地図帳) VTR「世界の地形」(NHK)</p> <p>援助: 造山帯の説明の際に、火山や地震の分布図を紹介して、不安定な地形であることをおさえておく。</p> <p>プレートの移動(プレートテクトニクス)については簡単に紹介し、詳しく扱わないようにする。</p>
		<p>大地は山脈と平原とに別れており、山脈は大きく見ると環太平洋造山帯とアルプス・ヒマラヤ造山帯を形成しているのだな。このような造山帯は、プレートの移動にもなって形成されており、不安定な地域なのだ。日本は環太平洋造山帯の一部に属しており、不安定な土地なのだ。日本の地形について詳しく調べてみたい。</p>		
2 日本の地形	<p>日本では、山地が国土の中央に連なっていることを、地図や地図帳を使いながらつかみ、このことにより日本の河川は短く急流で、土砂を運び複雑な地形をつくっていることが理解できる。</p>	<p>1, 日本の白地図に主な山地や山脈を書き込み、日本の地形についてわかることを交流する。</p> <p>日本の地形についてわかることを交流しよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>フォッサ・マグナを境にして、東側は南北に、西側は東西に連なっているな。</li> <li>中央には日本アルプスがそびえているんだな。</li> <li>国土の4分の3を山地がしめている。</li> <li>平地や盆地はあちこちに点々としているな。</li> </ul> <p>2, 日本と世界の大河の比較をさせ、日本の河川の特徴についてまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本の河川は短くて流れが急である。</li> <li>流域面積もせまい。</li> </ul> <p>3, 河川の浸食・運搬作用によって様々な地形が形成されることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>扇状地、三角州</li> </ul>	<p>エ -</p> <p>地図や日本と世界の大河の資料から、「日本が山がちの地形であること」「河川の流が急であること」を正しく理解している。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動1・2 授業後 &lt;方法&gt; 学習プリントの記述</p>	<p>「日本の地形」(地図帳) 「日本と世界の大河」(地図帳) 写真資料「扇状地、三角州」</p> <p>援助: 日本列島のほとんどが山地であることと、そのために河川が急であることを関連づけて考えられるよう助言する。</p>
		<p>日本では、国土の4分の3を山地がしめていて平野や盆地はあちこちに点々としているのだな。中央には日本アルプスがそびえ、東側は南北に、西側は東西に山地が連なっているのだな。日本の河川は短くて急流で、土砂を運ぶことで扇状地や三角州など様々な地形がつけられているのだな。気候についてはどうだろう。</p>		
3 世界から見た日本の気候	<p>世界の気候は、赤道に近い地域から熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯、寒帯という帯状の地域に区分されることを理解し、それぞれの気候帯の特色を雨温図や写真資料を元にして読み取り、まとめることができる。</p>	<p>1, 『世界の気候と植生』の図や雨温図、写真を見ながら、熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯、寒帯の特色についてまとめる。</p> <p>それぞれの気候の特色をまとめてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>熱帯は気温も降水量も高く、熱帯雨林が広がっている。</li> <li>乾燥帯は降水量が少なく、砂漠が広がっている。</li> <li>温帯は雨も多くて温暖な気候なのがわかる。</li> <li>冷帯は気温が低くて、針葉樹林が広がっている。</li> <li>寒帯は気温が低くて、1年中雪と氷におおわれていて森林は育たない。</li> </ul> <p>赤道から極に近づくにつれて熱帯から乾燥帯、温帯、冷帯、寒帯へと分布していることに気づかせる。</p> <p>2, 世界と比べて日本はどんな気候の国なのか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本は温帯に属している。温帯について詳しく調べてみたい。</li> </ul>	<p>ウ -</p> <p>それぞれの気候帯の気候の特色を、雨温図をもとにして読みとり、端的に説明している。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動1 &lt;方法&gt; 学習プリント</p>	<p>「世界の気候と植生」(教科書) 写真資料「世界の植生」 世界の各地域の雨温図(地図帳)</p> <p>援助: 雨温図の見方について「降水量」「温度」の二つを表していることを時間をとって説明する。</p> <p>援助: 世界の気候分布は、赤道を中心に規則性があることに気づけるよう助言する。</p>
		<p>世界の気候は、赤道から極に近づくにつれて熱帯から乾燥帯、温帯、冷帯、寒帯と分布しているのだな。それぞれの気候帯では、植物の生育など様々な点で特色が見られるのだな。日本は温帯に属しているけれども、温帯について詳しく調べてみたい。</p>		

時	ねらい	学習活動	評価規準・場面・方法	資料および指導・援助
4	世界の様々な温帯について、その特徴(気温・降水量・分布・植生・人口)を複数の資料から考察するとともに、日本では季節風の影響で四季による変化が見られることを理解できる。	<p>1, 温帯は世界のどのあたりに広がっているのか、前時の資料をもとにまとめることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主に中緯度地域に分布している。</li> <li>ヨーロッパやアメリカ, アジア地域に多い。</li> <li>日本も温帯に含まれている。</li> </ul> <p>2, 衛星写真の雲の分布と世界の気候帯, 人口分布図を見比べて温帯について気づくことをまとめる。</p> <p>三つの資料から温帯の特徴をまとめてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温帯には雲が多いので, 降水量が多いことがわかる。様々な植物も育ち, 農業に適しているのではないが。</li> <li>温帯の地域に人口が集中している。</li> <li>ヨーロッパは高緯度なのに温帯に属しているのはなぜだろう。大陸の西と東では特色が異なる。(西は偏西風による影響があることを押える)</li> </ul> <p>3, 日本は大陸の東側に位置するが, どんな特色があるのかまとめてみる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>降水量が多くて, 1年間の気温差が大きい。</li> <li>季節風による影響が見られる。</li> <li>梅雨や台風による影響も見られる。</li> </ul>	<p>イ -</p> <p>三つの資料をそれぞれ関連させて, 温帯地域の機構の特徴について考察している。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動2 &lt;方法&gt; 挙手発言 ノートの記述</p> <p>エ -</p> <p>日本が温帯に属すること, 季節風の影響によって四季があることを正しく理解している。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動3 &lt;方法&gt; ノートの記述</p>	<p>「衛星写真の雲の分布」(教科書) 「世界の人口分布図」(地図帳) 「世界の気候」(地図帳)</p> <p>援助: 「衛星写真の雲の分布」の資料については, 雲の形や分布に着目するよう助言する。</p> <p>援助: 一つの資料を読みとっている生徒の発言を, 練り合い通して関連づけていくことで, 複数の資料を関連づけて考察する力をつけるようにする。</p>
		日本が含まれている温帯は, ヨーロッパやアメリカ, アジア地域に分布しており, 降水量が多くて様々な植物も育っているのだな。また, 農業に適しており, 世界的に見ても人口が集まっているところが温帯なのだ。同じ温帯でも様々な気象条件によって, 大陸の西と東では特色が異なるのだな。日本の中ではどうなのだろう。		
5	日本の気候は温帯に属しているながらも地形や位置との関係で地域区分できることを, 雨温図や日本の植生分布の資料から読み取り, まとめることができる。	<p>1, 日本の六つの気候区分を紹介し, 雨温図から, その特徴についてまとめる。</p> <p>日本の各地域の気候の特色をまとめよう</p> <p>北海道の気候は気温が低い 南西諸島の気候は気温も降水量もともに高い 日本海側の気候は, 冬に降水量が高い 太平洋側の気候は, 夏に降水量が高い 中央高地の気候は降水量, 気温ともに低い 瀬戸内の気候は, 降水量は少ないが気温は高い</p> <p>とについては位置との関係が, ~ については地形との関係があることをおさえる。</p> <p>2, 日本の土地利用の3分の2が森林であることを紹介し, 日本の植生分布についてわかることをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気温によって育つ森林の種類が違うのだな。</li> </ul>	<p>ウ -</p> <p>日本の地形(山地の分布), 各地の雨温図から, 気候区分図から日本の各地域の特徴を読み取り, 端的に説明している。</p> <p>&lt;場所&gt; 学習活動1 &lt;方法&gt; 挙手発言 ノートの記述</p>	<p>「日本の気候区分と雨温図」(罫書) 「日本の植生分布」(教科書) 「日本の土地利用」(教科書)</p> <p>援助: 世界の気候帯の特色をまとめた時と同様に雨温図から気候の特徴を考えることを押さえる。</p> <p>森林が育つ条件(気温や降水量など)をあらかじめおさえておく。</p>
		日本の気候は温帯に属しているが, 6つの気候区に分けることができるのだな。それらの気候区は地形や位置などの関係で違いが見られるようになってくるのだな。日本の国土の3分の2は森林で, 地域によって育つ種類が違うのだな。それは気温などによる影響が大きいのだな。		
6	日本に様々な自然災害が起こっていることを理解し, 日本の地域的特色である「環太平洋造山帯の一部で不安定な土地」「河川が急」「台風の通り道」といった自然条件をもとにして, 日本にで自然災害が多発する背景について, 考察することができる。	<p>1, 今までに日本でどのような自然災害が起こったのか体験したものを含めて交流する。</p> <p>2, 過去10年間に日本では, どんな自然災害が起こっているのかまとめる。</p> <p>3, 日本で起きた自然災害を振り返る中で, 日本では多くの自然災害が起こっていることを理解する。</p> <p>4, 日本ではどうしてこんなにも自然災害が多く起こるのかを考える。</p> <p>なぜ, 日本では多くの自然災害が起こるのだろう。</p> <p>今までの学習を振り返りながら考え, まとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本は環太平洋造山帯に属し, 地震や火山の多い不安定な大地上に位置しているから。</li> <li>日本は, 降水量が多く台風や季節風などの影響があるから。</li> </ul>	<p>イ -</p> <p>自然災害が起こる背景について, 日本の自然環境の特色と関連づけて考えることができる。</p> <p>&lt;場面&gt; 学習活動4 &lt;方法&gt; 学習プリント 発言内容</p>	<p>「過去10年間に日本で起きた自然災害」(理科年表)</p> <p>「自然災害の分布」(理科年表)</p> <p>援助: 既習内容を生かし, 関連づけながら考察するよう助言する。</p>
		日本では毎年たくさんの自然災害が起こっている。それは, 日本が環太平洋造山帯に属して不安定な大地上に位置していることと, 台風や季節風の影響をうけているなど, 日本の自然環境に原因があるのだな。		

